

【島 裕ゼミナール】 フィールドワーク・活動

タイトル	デザイン思考・イノベーション(島 裕ゼミ)
対象地域	栃木県、東京都
テーマ	共創によるイノベーション創発の研究
キーワード	イノベーション, デザイン思考, 共創, リビングラボ

地域経済を活性化し、ウェルビーイングを実感できる魅力的な地域づくりのためには、現実を踏まえて自ら問いを立て、解決に導くことのできる人材が求められます。ゼミでは、デザイン思考を軸として地域が抱える社会課題を丹念に観察し、その本質を理解した上で解くべき課題を抽出、解決策を構想する力を身につけるため、グループワークによるPBL(Project Based Learning)に取り組んでいます。

具体的には、フィールドワークを通じて他者とのコミュニケーション力(共創力)、新しいアイデアを生み出す力(イノベーション力)、問題の構造とあるべき姿を表現する力(構想力)の修得を目指しています。

● 宇都宮市主催「大学生によるまちづくり提案 2023」 LINK

<https://www.city.utsunomiya.lg.jp/shisei/machi/1034532/kenkyu/renkei/1033935.html>

https://www.city.utsunomiya.lg.jp/res/projects/default_project/page/001/033/935/2023research12.pdf

2023年度は『私たちでつくる「アスノミヤ」～スーパースマートシティの実現に向けて～』というテーマが設定され、学生が考えるスーパースマートシティ実現に向けた提案の募集が行われました。グループワークとして宇都宮市の中心市街地での行動観察、学内でのアンケート調査、全国先行事例などの文献調査に取り組み、結論としては、自然環境への関心を高める活動を「部活」になぞらえ、ホタル保護を行う「ホタル部」を立ち上げて学生が市民と共に気軽に自然保護活動に取り組むプロジェクトを提案しました。ここでは、自然保護活動に貢献したポイントを交通 IC に還元する仕組みを導入することで、「人の行動を後押しする身近に役立つスマートシティ」の実現をモチーフとしました。(写真①～写真⑤)



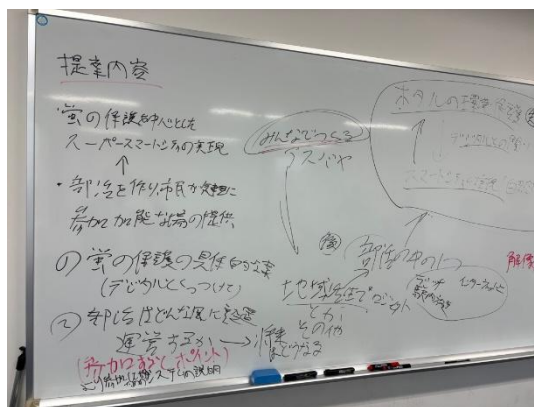
写真①



写真②



写真③



写真④

提案の要旨

**宇都宮市の豊かな自然資源を生かし環境への関心を高めることで
自然と共存するスマートシティの実現を目指す**

<宇都宮市における課題>

- ・市民の活動の場が少ないこと
- ・市民の自然環境への関心が薄いこと

<課題における解決案>

- ・「アスノミヤブカツ」を創設し地域活性化を促す
- ・「ホテル部」を創設し自然環境への興味を喚起する



写真⑤

● 益子町主催ワークショップ

LINK https://note.com/mashiko_town/n/nb90816c93604

渋谷駅直上にあるオープンイノベーション拠点「渋谷 QWS」において、「益子町に何度も足を運びたくなる「農業×観光」の取り組みとは？」をテーマとするワークショップに参加しました。益子町における農業の現況についてインプットを受けた後、地元でバナナ、パイナップル栽培を営んでいる株式会社あやね、観光農園を運営する「ブルーベリーと里山と」の経営者による現場目線のスピーチを聞き、益子町農政課をはじめとする行政職員、益子町出身者、社会起業家、コンサルタントといった多様なメンバーとブレインストーミングを行いました。

日頃なかなか接点のない多様な経験と専門性、様々な意見に触発され、若い世代ならではのアイデアを出すなど積極的にコミュニケーションを取っていました(写真⑥～写真⑪)



写真⑥



写真⑦



写真⑧



写真⑨



写真⑩



写真⑪

● 宇都宮市主催「大学生によるまちづくり提案 2024」

<https://www.city.utsunomiya.lg.jp/shisei/machi/1034532/kenkyu/renkei/1040008.html>

https://www.city.utsunomiya.lg.jp/res/projects/default_project/page/001/040/008/2024_research01.pdf

<https://www.teikyo-u.ac.jp/event/2024/0629>

2024 年度は『まちに広がる共創の輪～新たな価値の創造を目指して～』というテーマについての提案募集となりました。地域経済学科では、2024 年 6 月に地域経済共創シンポジウム「地域におけるイノベーション創出ー地域・企業・大学の共創」を開催しました。シンポジウムでは基調講演とパネルディスカッションを通じて、地域課題解決と新たなビジネス創出のために市民、大学、企業、行政の共創による価値創造(イノベーション)への取り組みが有効であるとの意見が提起されました。

グループワークでは、シンポジウムでの議論を土台として、中心市街地における大学と地域、企業と地域の共創事例を視察したほか、宇都宮市オリオン通り商店街におけるアンケート調査や清掃イベントへ参加するなど、自分たちの足を使って「共創のカタチ」について調査を深めました。結論としては、中心市街地の中に「学食」のような「居場所(みやニティラボ)」を設け、大学生、市民、企業の共創の拠点とすることを提言しました。



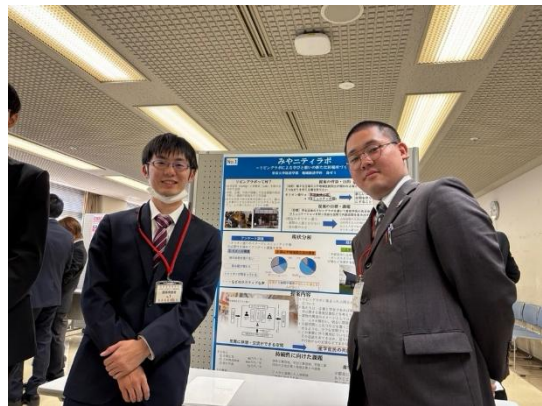
写真⑫



写真⑬



写真⑭



写真⑮

以上